

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600123		
法人名	社会福祉法人 緑陽会		
事業所名	グループホーム竹とんぼ		
所在地	苫小牧市字樽前222-11		
自己評価作成日	平成28年1月7日	評価結果市町村受理日	平成28年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0173600123-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 1 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・豊かな自然環境に囲まれており、四季の移り変わりを感じて頂ける様に入居者様のケアに取り入れている。また、地域行事の運動会等に参加したりと地域交流にも努めている。
 ・入居者様一人ひとりの思いや希望を理解した中で、スタッフはどうケアするか常に考えながら、共に過ごし生活スタイルを尊重した中で、その人らしく穏やかに安心、安全な暮らしができる様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、社会福祉法人緑陽会を母体とし、特別養護老人ホームに併設された開設15年目のホームです。樽前山の麓自然豊かな環境に囲まれ、四季の移ろいを感じながら日々の生活を送っています。地域との交流を大切に、特認校の樽前小学校の行事、町内会との合同運動会、学芸発表会、地域文化祭への作品の出展、夏休みを利用した学校での芸術家のアート展見学、お祭りでの子供神輿、バーベキュー祭り、緑陽園祭で家族、子供、地域住民との相互交流が行われています。併設の特別養護老人ホームの看護師による健康管理や24時間対応の協力医療機関との連携が確保されており、利用者、家族の安心に繋がっています。利用者のその人らしさを大切にし、一人ひとりの主体性が尊重され、ありのままを受け入れたケアサービスを実践しているホームです。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、スタッフルームに理念を掲示して、常に意識して確認し、実践に繋げている。毎月のケア会議においても、参加者全員で確認し共有を図っている。	「穏やかで楽しく尊厳のある生活を保障する。その人らしい生活スタイルを援助する。」経営理念、ケア理念の下、毎月のケア会議において意思統一を図り、日常生活ケアの中で活かすよう努力しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の運動会への参加や文化祭への作品出展を行い、地域参加に努めている。町内のお祭りには、子供神輿がホームに来て下さる等、交流も図っている。ホームの行事にも地域の方々に招待し、交流を深めていきたいと考えている。	小学校、樽前町内会合同の運動会への参加、学芸会の見学、樽前総合文化祭への作品出展、アート展の見学、樽前神社祭子供神輿来訪、竹とんぼバーベキュー祭り、緑陽園祭で地域住民、子供、家族との相互交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様や町内会の方に認知症ケアのあり方についてお伝えすることにより、地域に広がっていくよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、現状を報告している。常に情報や意見を伺い、サービスの向上に努めている。	市担当者、地域包括支援センター職員、家族代表、町内会長、町内会員、法人事務局長、管理者、スタッフで年6回開催され、入居利用者の状況、行事等報告、行事等予定案内及び報告、意見交換が行われ議事録を家族に送付しています。ここでの情報、意見はサービスの向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて意見交換をしている。	管理者が行政担当者への連絡、相談、運営推進会議での意見交換の内容報告等をはじめ積極的に情報交換を行い、協力関係を築いています。また、グループホーム協議会に参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で学び、ケア会議の中でも内容を確認している。共有した認識のもと、スタッフがケアの実践を行っている。玄関は防犯上夜間のみ施錠している。	身体拘束を防止するためのマニュアルを整備して、内部研修を行い、身体拘束の弊害について理解を深め、日々のケアの中で実践に繋げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修で学び、ケア会議の中でも内容を確認している。利用者様の心身の変化を常に意識し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議や地域包括支援センターから知識を得る等して活用に努めている。成年後見制度については平成28年2月、研修会にて学ぶ予定にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様に理解して頂ける様に時間をかけて説明している。解約時や改定の際も同様に、安心して頂ける様、説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ポスターを掲示し苦情ボックスを設置している。対策委員会もいつでも対応できる様設けている。事業所の運営規定、重要事項説明書に外部第三者委員の氏名を明記している。ご家族の訪問や電話等で近況報告し意見を伺い反映させている。	家族の面会時や電話での近況報告時に意見要望を取り入れています。年4回の「絆」便りでも近況を報告しています。	家族訪問時、電話等での近況報告時に利用者、家族の意見、要望を伺っていますが、さらに幅広い意見、要望を伺い運営に反映させる方策として家族アンケート等の実施の検討を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議にて、スタッフの意見や提案を聞き反映出来る様に努めています。また、普段から意見が言いやすいよう、きっかけ作りにも努めている。	管理者、ユニット主任は、ケア会議等で職員の意見や提案を聞き、運営に活かしています。職員が常に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定に従っており、勤務実績表にて職員の状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を予定し開催しております。また各種研修会への参加を奨励しております。ケア会議の中で、研修報告を行い、検討を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内周辺の同業者の見学を受け入れたり、研修で親交を深めております。苫小牧グループホーム連絡会に参加し連絡を取り入れやすいよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所までに出来る限り情報を収集し、入所後もご本人様、ご家族様から伺う等し、信頼関係が築ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族から十分お話を伺い、入所後も継続して支援できる様に、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と話し合い、必要なケア環境を検討するように努めている。入所申し込み時に他種の施設の案内をしており、その方に合ったケアについて説明し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、利用者様それぞれの思いを受け止め、やりがいや生きがいを持っていただける様に必要な援助を行い、信頼関係が築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と同じ方向性の中でケアしていける様に、面会時や電話での近況報告や意見交換を行い、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時の外出支援や面会を自由にして頂き、これまでの大切な関係が途切れない様、支援に努めている。	入居前に住んでいた家や馴染みのある懐かしい場所へのドライブ、外出など、希望に沿った支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性を大切に、過ごしたい場所や時間に配慮し、皆様が快適に過ごして頂ける様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしていき、相談等がある際は応えていけるように努めております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートからの得られる日々の暮らしや、ご家族からの情報助言、利用者様との会話や動向から得た情報により、その人らしく過ごせるように、思いや望みを受け止めた必要な援助を提供していくよう努めている。	包括的自立支援プログラムを取り入れ、利用者、家族の意向を把握し、日々の暮らしの中での利用者の思いを会話や動向から感じとり、一人ひとりの意向把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や好み等を対話にて収集する他に、ライフヒストリー表への記載をお願いし、基本情報として把握に努め、サービス提供に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い、顔色や表情、精神状況、生活動作の状態変化に気を付け、心身の状態の把握に努めております。毎月のケア会議の中でモニタリングを行い把握、考察してに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様からの希望を聞き反映させていくと共に、担当制による毎月モニタリングを行い、ケア会議の中で意見交換を行っております。その方に合った介護計画を作成して、状態に変化がある場合には現状に合わせた計画になるように変更を行っている。	包括的自立支援プログラムによるアセスメントを行い、利用者、家族の意見を反映したケアプランを作成しています。担当制による毎月のモニタリングをもとにケア会議の中で意見交換を行いながら個人に合った介護計画を作成し、3か月または6か月で見直し現状に即した介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のアセスメントシート記録、ケアの実践状況記録やスタッフ連絡ノートを活用し情報共有を図っており、それを基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意見や要望を聞き、その方にとって最適な支援、サービス提供が常にできるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣、地域との関わりの中で互いにいつでも連絡が取り合える関係づくりに努めている。豊かな自然環境をケアに取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に応じて、相談しながら、かかりつけ医を決めている。協力医療機関の定期受診、往診、歯科受診等も行っている。看護師との医療連携体制も整っており適切な医療支援をしている。ご家族様にも協力頂き受診助している。	利用者、家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診が家族、ホーム対応で行われ、又、協力医療機関の訪問診療、看護師との医療連携体制を整備して適切な医療を受ける支援を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームの看護師と医療連携体制が整っており、日常的に入居者様の健康管理を行い、協力医療機関においても、すぐに相談できる環境にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、ソーシャルワーカー等の情報交換を行い、状態の把握とケアの方法等を話し合い、安心できるようにしている。また、早期退院できるように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針を整備している。事業所として、できること、できないことをご家族様、医師、看護師、スタッフと話し合い、方針を共有している。	終末期の指針を整備し入居時出来ること、出来ないことを利用者、家族に説明し、状態に合わせて、家族 医師、看護師、スタッフと話し合い情報を共有した支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習講座を受けており、マニュアル作成している。スタッフの連携により、緊急に備えるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や通報訓練、災害訓練、消火器取扱訓練を実施している。マニュアル、連絡網を整備している。また、消防署、地域住民、併設施設との連絡体制が整っている。	併設の緑陽園と一緒に消防署立会いで行う訓練の他、独自の消防訓練を年3回行っています。消防署、地域住民とも協力関係を築いています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳のある生活を援助している。日々の中で一人ひとりのプライバシーに配慮し傷つけない声掛けや、記録の取り方にも留意している。	一人ひとりの人格を尊重した接遇、入浴、トイレ介助等日々の生活の中で十分配慮した対応が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活が送れるように、好みや言動、意向を把握して自己決定して頂ける様に気持ちを尊重した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様一人ひとりのペースや気持ちに合わせたケアを心がけて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の習慣を尊重し、愛用の化粧品を使用することやスキンケアの継続に努めている。服装や頭髪なども好み維持できる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の栄養士が献立作成している。スタッフと一緒に食事を摂り、生活の場を共有している。盛り付け、お米研ぎの準備や食器洗い等の片付けには、一人ひとりの力を把握した上でお誘いしながらも、心身の負担にならないように努めている。	併設の緑陽園の栄養士が献立を作成し、食事毎に主菜が運ばれてきます。利用者は味付け、盛り付け等能力に応じた手伝いを行い、スタッフと共に食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは併設施設の管理栄養士が作成しており、バランスのとれた食事が提供できている。入居者様の嗜好や形状に合わせて提供し、アセスメントシートに摂取量を記載し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の能力に応じて必要な支援をしている。歯科受診時に具体例を挙げ、助言やアドバイスを頂いてケアに活かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を記録にて把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。習慣を活かした自立支援を行っている。	一人ひとりに合わせたトイレ介助をしています。衛生用品の使用等家族とも相談をしながら自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物内容と摂取量の把握と、排便の形態と排出量を確認、記載している。一人ひとりの状態に合わせて身体を使うような運動や体位、姿勢の改善を図ったり、粉末の食物繊維を取り入れたり工夫し予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は時間や曜日は決めず、入居者様の希望や体調を伺い実施している。一人ひとりに合わせてゆっくりと入浴して頂ける様支援している。	週2回を目途として、利用者の希望に沿った入浴の支援をしています。眺望の良い広々としたお風呂で、楽な入浴方法、道具を取り入れ、楽しくゆっくり入浴できる支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況、体調、生活習慣に応じて休息して頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の内服薬情報提供表を作成しており、用法、用量、効能、副作用の把握に努めている。体調に変化がないか観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割や、やりがいを大切にすると共に、これまでの生活習慣を把握しながら支援している。ドライブ、洗濯物たたみ、買い物、食器洗いすぎ等、負担に配慮しながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に留意し、希望を尊重した中で散歩やドライブ、地域行事等、季節感を取り入れた外出支援に努めている。	散歩、ドライブを兼ねた買物、行事、季節的な外出等個別支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を理解し、希望時には気軽に使用できるよう見守りや声掛け等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話をひいている方もおり、いつでもやりとりが出来るように支援している。贈り物や手紙が届いた際、電話して頂けるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節に応じた飾り付けをしている。壁には入居者様の作品や写真を掲示している。ソファの配置や温度、湿度、音、照明に配慮した空間づくりを工夫している。	広々とした吹き抜けのリビングに、観葉食物やお花が置かれ、壁には利用者の写真、作品が展示されています。それぞれに寛げるスペースが用意されています。温度、湿度も適温に管理しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるスペースや皆様で過ごせるスペースもあり、居心地の良さの中にもプライバシーに配慮した空間づくりが出来る様、家具の配置に留意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にクローゼットと洗面台が備え付けてある。入居時に使い慣れた家具やアルバム等をお持ちいただける様お願いし、家庭環境に近い部屋づくりの工夫をしている。	利用者は馴染みの品々を持ち込み、写真や趣味の作品を飾り、落ち着いて過ごせる居室づくりを家族と一緒に工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダー、時計、手すりの設置やトイレの場所、ご自分の居室がわかるように表札や顔写真を掲示している。また、安全に配慮して、家具等の位置に留意している。		